

## オピニオン

銀座で養蜂!?

## ～広がる「銀座ミツバチプロジェクト」の輪



田中 淳夫  
紙パルプ会館  
取締役総務部長  
銀座ミツバチプロ  
ジェクト世話人

銀座で食についてのシンポジウムを開催してきた「銀座食学塾」と、銀座の街の歴史や文化を学んできた「銀座の街研究会」の有志たちが集まり、銀座3丁目の紙パルプ会館屋上で、ミツバチを期間限定で飼ってみました。銀座の街なかで、果たしてハチミツが採れるのだろうか？と不思議に思われるかも知れませんが、ミツバチたちが蜜を運べるのは4キロ四方。銀座周辺には皇居・浜離宮など緑豊かな自然が十分に存在するのです。

“銀座とミツバチ”なんて、面白い組み合わせと思いませんか？当初はどの程度蜜が採れるか心配でした。けれども、生産現場から一番離れたこの街で、自然の恵みのハチミツを採る。そのハチミツで街と連携し、この街ならではの楽しい企画ができると信じ、このプロジェクトはスタートしました。

## 消費の街から生産もできる街へ

今年3月末に西洋ミツバチ3群3万匹を設置して2ヶ月。その数も今や10万匹を超えました。蜜の種類もソメイヨシノ、マロニエ、ユリノキなど都会の樹木の、移り変わる季節の順番に、香り豊かなハチミツが採れ、5月末までに予想の2倍、100キロを超えるハチミツが採れました。

銀座は昔から職人の街。採れたハチミツは銀座の技を活かして、老舗バーでカクテル、有名なケーキ屋さんではスイーツが実現しています。お店で使ってもらう条件はただ1つ。「銀座で採れたハチミツは銀座に来なければ食せない」というルールを守ること。また飲食だけではなく、蜜蝋はロウソクにして今年のクリスマスイブに銀座教会で祭壇を飾るキャンドルサービスになる予定もあります。さらに指揮者の友人に協力を仰ぎ、ミツバチをテーマにしたオペレッタやコンサートも実現しそうで、この街ならではの夢が次々と広がっています。

## ミツバチが教えてくれたサステイナブルな世界観

最初はハチミツが採れた事だけで興奮していた私たちも、最近では、ミツバチを飼う事で、その裏側の見えなかったものも見えてきました。木々が蜜を出すのは、ミツバチを通して受粉したいからであり、ミツバチが集めなければその蜜は道路にしみこんでいただけ。ミツバチが毎日花粉を採集しにきているので、近隣の樹木は確実に受粉し、ソメイヨシノや他の木々が実を付けはじめました。そして、出来た実を鳥が食べに戻って来

る。まさに命を繋ぐ世界が見えてきたのです。「桜の木は、私たちの宴会のために綺麗な花を咲かせていたんじゃないんだ……」とわかった時、ミツバチは私たちに大切な事を教えてくれたと思いました。

始めてまだ間もない出来事でしたが、世話をしてきたこのミツバチは6月初旬からひと時養蜂家に預け、来年「桜の花」の便りが聞こえて来る頃には「また銀座にミツバチが帰って来た!」となる予定です。今回、銀座が「人にもミツバチにも優しい街」という事が証明され、街の人々に心地よい衝撃となったようです。将来、銀座が“ミツバチが似合う街”と呼ばれるように、私自身も養蜂技術を磨いていきたいと思っています。

「銀座ミツバチプロジェクト」は、銀座の街に新しい価値観をもたらすとともに、街の人たちを巻き込み、今後もさまざまな方面へ発展しながら、街の活性化につながっていくと信じております。

